

平成 26 年度 危機管理士 2 級講座（自然災害編）開催レポート

2015 年 1 月 29 日～31 日にかけて、平成 26 年度危機管理士 2 級試験自然災害編が開催されました。自治体、民間企業に所属される方々をはじめとして、幅広い分野から多くの方々に受講して頂きました。

【2015 年 1 月 29 日】

第一講義（10：30-12：00）

「危機管理概論」 明治大学 中村章

「危機管理概論」では、海外との比較から日本の公助依存と自助意識の低さが指摘され、自助と公助のふたつの視点から、今日の行政の危機管理体制の在り方について考えました。



第二講義（13：00-14：30）

「風水害」 元国土交通省水管理・国土保全局他 安田実

この講義では、水害発生の切迫期から発生後間もない時期までに実施される被害軽減のための対応とその準備である「水害危機管理」についての講義が行われました。前半は実際の大規模水害のデータをもとに近年の風水害の傾向を考察し、後半ではそれを踏まえた上で、洪水ハザードマップや避難勧告等の判断・伝達マニュアルの作成方法を学びました。



第三講義（14：40-16：10）

「震災応急対策」 京都大学 牧紀男

第三講義では京都大学牧教授による「震災応急対策」の講義が行われました。講義の冒頭で牧教授がご指摘された「災害対応の課題」は、①被災自治体をどのように支援するのか、②業務支援を可能にする仕組みが存在しない（危機対応ドクトリンの欠如）についてでした。

この課題を打ち破るために、必要不可欠であると強調された仕組みが「全ての機関が同じ仕組みを使うことで協働を可能にする」ICS（Incident Command System）です。この仕組みをもとに、有事における組織の意思決定プロセス、関係機関間の情報共有の方法を学びました。



第四講義（16：20-17：50）

「業務継続計画（BCP）」 東北大学 丸谷浩明

行政組織が災害等で甚大な被害を受けた場合、何らかの対策を講じていない限り、行政の業務レベルは著しく低下します。そこで迅速な業務復旧を行うために、業務の立ち上げ時間を短縮する取り組みや、発災直後の業務レベルの向上の手順を決めておく計画が必要となります。この計画がBCP、業務継続計画と呼ばれるものです。第四講義ではこのBCPの位置付けやポイントが論じられました。



【2015年1月30日】

第五講義（10：00-11：30）

「火山災害」 明治大学危機管理研究センター研究推進員

NPO 法人火山防災推進機構理事 新堀賢志

火山災害には①生命を即時に危険にさらす場合と、②長期にわたる避難等により緩慢に危険にさらす場合の二つがあり、火山防災においては「知識から文化（避難する文化、自己責任の文化、共助の文化）へ醸成する意識」が必要である、というお話からこの講義は始まりました。前半では火山の種類や噴火の仕組みについて学び、後半では火山災害の対応事例や国の調査研究の仕組みについての講義が行われました。



第六講義（12：30-14：00）

「復旧復興対策」 明治大学 中林一樹

第六講義では、震度7以上であった阪神淡路大震災（1995）・新潟県中越地震（2004）・東日本大震災（2011）を実例に挙げながら、災害復興プロセスや災害復興法制度とその体系についての講義が行われました。後半では、災害が実際に起こる前に「災害が起きてしまった」と仮定した訓練を行う事前復興対策や、復興まちづくり訓練（事前復興）が各自治体においてどのように進められているかが紹介され、最先端の復旧復興対策について学びました。



第七講義 (14 : 10-17 : 10)

第八講義 (17 : 20-18 : 20)

「危機管理演習・危機管理演習報告会」首都大学 市古太郎

第七講義、第八講義では「危機対応主体形成に向けた図上訓練手法の組み立て方」として図上訓練の位置づけについて講義があり、それについて受講者が理解したところで図上訓練を企画運営する上での課題や悩みについての受講者からの意見出しを行いました。その後の演習では、発災直後の公的避難所模擬運営会議として、避難施設運営会議時に想定される 3 つの問題（トイレ、子どもへのクレーム、高齢者の空間確保）について班ごとに分かれて検討をし、最後に検討結果について全体発表を行い、活発な意見交換が行われました。



【2015年1月31日】

第九講義 (10 : 30 - 12 : 00)

「危機管理士総論」関西大学 河田恵昭

最終日に行われた第九講義では関西大学の河田先生に「わが国が置かれている危険な災害環境と対応策」と題して、日本の災害発生傾向や災害対策基本法の問題点等についてお話ししました。今の災害多発時代を生きるために、必要な知識、情報、教訓を自分からとりに行かなければならないということを学びました。

